

対カザフスタン国別開発協力方針

1. 当該国・地域 への開発協力のねらい

カザフスタンは、石油、天然ガス、ウランなどの豊富な天然資源に恵まれ、中央アジア諸国の中で最大の経済規模を有しており、一人あたりの名目 GDP も 11,580 ドル（2016 年）と比較的水準が高い。

一方で、同国はインフラの未整備、市場経済を支える人材の不足、地域間の経済格差、環境汚染などの問題を抱えている。我が国のカザフスタンへの支援は、これらの問題への対応を強化し、持続的成長を後押しするのみならず、我が国の資源エネルギーの安定的確保及び供給源の多様化という観点からも意義がある。また、カザフスタンへの支援は、中央アジア諸国の経済発展と地域内協力の促進を通じた地域全体の安定にも寄与することが期待される。

2. 我が国の ODA 基本方針(大目標):経済開発と社会開発のバランスの取れた国造り支援

カザフスタンは長期計画「戦略『カザフスタン 2050』」に基づき、産業の多角化による資源依存の経済からの脱却を目指し、その優先課題として、インフラ開発、投資環境の整備、人材育成、企業活動への支援、社会保障の改善、近代的な教育の促進、国家機構の強化とカザフスタン民主主義の発展などを掲げている。我が国は、カザフスタンのニーズを踏まえ、経済開発と社会開発のバランスの取れた効果的な国造りの支援に努める。

3. 重点分野(中目標)

(1) 経済・社会インフラの整備

カザフスタンでは、運輸・電力などの経済インフラや、医療・教育などの社会インフラの整備が追いついていない。我が国としてはこれら経済・社会インフラの整備を支援することで、カザフスタン全体の経済発展の基礎づくりを行い、地域間のバランスのとれた発展にも貢献する。

(2) 持続的経済成長のための人材育成

カザフスタン政府は、持続的に安定した経済成長を実現するため、産業の高度化、中小企業の振興を通じた製造業の育成、農業の振興などに取り組んでいる。これを踏まえ、我が国は、これら課題に取り組む行政官・民間セクターの人材育成などを中心とした支援を行う。

(3) 環境保全・気候変動対策

カザフスタンは、ソ連時代からの旧式設備の劣化などによるエネルギー効率の著しい悪化、地下資源の採取に伴う環境破壊、アラル海の縮小にともなう砂漠化・塩害、セミパラチンスク旧核実験場周辺地域の放射能汚染などの様々な環境問題を抱えている。ついては、

我が国の高度な先端技術の活用も図りつつ、カザフスタンの環境保全及び気候変動対策に貢献する。

4. 留意事項

- (1) 中央アジアは貧困、環境、防災、麻薬、国境管理、国際テロリズムなど一国のみでは容易に対処できない地域的協力を必要とする課題を抱えている。我が国としては、2004年に立ち上げた中央アジア5カ国と我が国との間の「中央アジア+日本」対話の枠組みを活用しつつ、アフガニスタンなどの周辺地域を含むより広い地域内協力も視野に入れ、対カザフスタン支援においても中央アジア地域の発展を後押しするよう留意していく。
- (2) カザフスタンは、2014年に開発援助機関の立ち上げを行い、中央アジアの近隣諸国に対する開発援助を実施する方針を明らかにしている。我が国は、国際機関とも連携の上、新たに設立された開発援助機関に対する協力をを行い、中央アジア地域の平和と安定の確保に貢献する。

(了)

別紙:事業展開計画